



## 小学校英語教育センター主催 国際交流基金支援事業による異文化理解交流講演会・セミナー

6月13日(月) 異文化マネジメント・エグゼクティブコーチ/トレーナーの村治孝浩(タカ・ムラジ)氏をお招きし国際交流支援事業による異文化理解教育講演会・セミナーを実施致しました。

村治 孝浩(タカ・ムラジ)氏 GLOBALEX代表

アメリカを拠点に、異文化マネジメントのための企業研修、エグゼクティブコーチングを展開。また、コロラド州において、学生対象のグローバル人材養成プログラムをリードするなど、真のグローバル人材に必要なリーダー能力養成のための人材育成活動を行っています。



■セミナー：9：00～10：30

「異文化コミュニケーション～多文化を背景に持つ児童や生徒の扱い方・保護者との接し方」

■講演：13：00～14：30

「英語の裏には文化の大きな壁がある～日本人が知らないエスノセントリズムとコミュニケーションの真実」

開催場所 鳴門教育大学  
多目的教室



### ☆講演・セミナーに参加した受講者の声☆

- ・今、グローバル人材の育成が重視されていますが、実際のところは何をすればいいのかわからず悩んでいました。今回、その根本に触れ、少し具体的に自分なりの考えを持つことができました。
- ・とても興味深いお話が聞けて勉強になりました。文化的な違いについて日本の歴史的な文化や外国の文化についての背景を将来教師になったときに子どもたちに伝えていければなと思いました。
- ・日本人が英語でのコミュニケーションが弱い本当の背景を具体的に理解することができました。勉強になりました。
- ・異文化だけでなく学校現場における保護者との関係、地域との関係にも汎用できると思いました。

その他、学部生・院生との討論会を実施し、普段お聞きできない貴重なお話をさせていただきました。  
またこのような機会が欲しいとのお声をたくさんいただきました。

参加者 計70名

多数のご参加をいただきありがとうございました。

異文化理解  
大切さ学ぶ  
鳴門大でセミナー

異文化理解の大切さについて学ぶセミナーが、鳴門市の鳴門教育大であった。米国で異文化理解に関する企業研修を行う「GLOBALEX」の村治孝浩代表(55)米コロラド州在住が講演し、学生ら約30人が耳を傾けた。村治さんは「その国の文化とともに、自分の文化を理解する」と訴えた。

【紙面写真】榎本信夫

異文化理解教育セミナーが徳島新聞(2016/7/1)に掲載されました

徳島新聞社提供

「文化とは何か?」

「価値観」「伝統」なども悪い文化も客観的に捉え、理解できるように指導したい」と話した。(大城映)

「とも大切な」と強調した。文化には「芸術」「スポーツ」など目に見えるものと、目に見えないものがある。文化には「価値観」「伝統」なども悪い文化も客観的に捉え、理解できるように指導したい」と話した。(大城映)

「とも大切な」と強調した。文化には「芸術」「スポーツ」など目に見えるものと、目に見えないものがある。文化には「価値観」「伝統」なども悪い文化も客観的に捉え、理解できるように指導したい」と話した。(大城映)





### B 小学校英語のワークショップ



平成28年5月20日、6月3日の両日にわたり、石濱担当のワークショップを開催致しました。小学校英語の授業の枠組み（「ごっこ遊び」を含む）と単元目標に基づく各種活動の指導方法について講義と演習をしました。「ごっこ遊び」では、『Hi, friends! 1, 2』の言語材料を活用して「お寿司屋さんごっこ」・「文房具屋さんごっこ」などの指導方法を示しました。各種活動の指導方法では、ゲームや歌の活動を示したばかりでなく、評価に関することで資料を提示しながら英語力（特に、聴解力）の1つの測定の方法も提案しました。具体的な資料を提供しながら講義と実際に体験していただきました。今回提案した内容が学校教育の現場で活用できるであろうと自負しております。参加者も熱心に取り組んでいただき感謝しております。この小学校英語のワークショップが最終的に児童の英語の向上に役立てばと願っております。

受講生は全体で17名でしたが、その内容は好評でした。（石濱）

### C 小・中学校英語教育研修のための講師派遣

平成28年5月20日、大阪市南田辺小学校の英語活動校内研修にて、「小学校外国語活動一モジュールをいかに活用するか」という内容で30名を講義をして参りました。文部科学省は、2020年度から全面的に始まる高学年外国語の教科化に伴い、現在行われている「聞く」「話す」活動に、「読む」「書く」ことに対する興味を育てることを目標に加えます。それらの定着を図るために、「繰り返し学習」として効果的なモジュール学習（帯学習）の活用も想定し、年内から年明けに結論を出すとしています。

このような動きの中で、教育現場では、モジュール学習について教師自身が理解することを迫られています。参加された先生方には、本センター作成のDVD教材「アルファベットの太文字・小文字を覚えよう」「アルファベットの『音』を覚えよう」を使用し、児童に楽しく興味を持たせながら「読むこと」「書くこと」をモジュール学習の中でどのように指導すべきかの具体的なイメージを持っていただけました。教員の負担を軽減しつつ、児童の「読み書き」の素地を着実に育むためのプログラム及び教材の必要性を改めて感じました。

（DVDの無料配布については、本センターHPをご覧ください）（畑江）



### D 附属小学校の英語絵本の読み聞かせ



今年から毎週水曜日のお昼休みに、本校ALTのクリスが英語の絵本を読んでくれています。

この日は、「Brown Bear, Brown Bear, What do you see?」という絵本を読んでくれました。

低学年の児童を中心に、たくさん子どもたちが、クリスの読む絵本に夢中になっていました。

子どもたちの反応を見ながら、このような英語に触れるいろいろな活動を行い、少しずつ英語に親しんでいく機会を作っていけたらと思っています。

（鳴門教育大学 附属小学校 英語科主任教諭 青山祥子）